

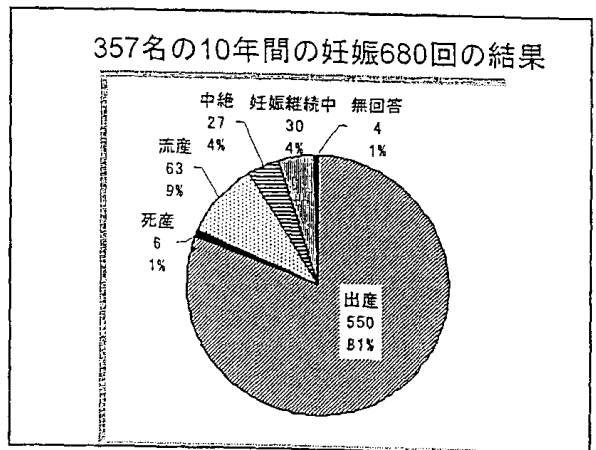
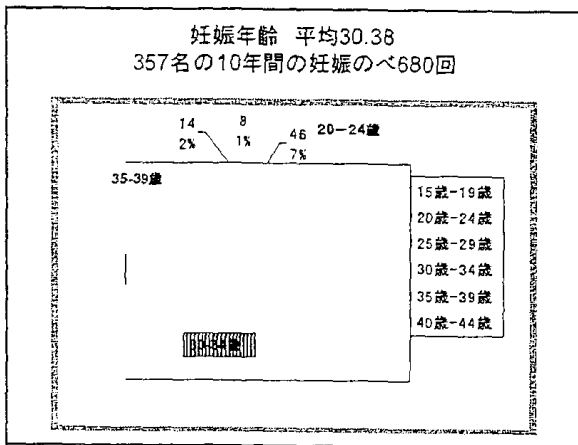
妊娠・出産をめぐる女性の意思 決定の過程と要因の検討

「妊娠と出生前検査の経験に関する調査」中間報告より

文部科学省・学術振興会科学研究費補助金
平成14-16年度助成研究
研究代表者 柘植あづみ

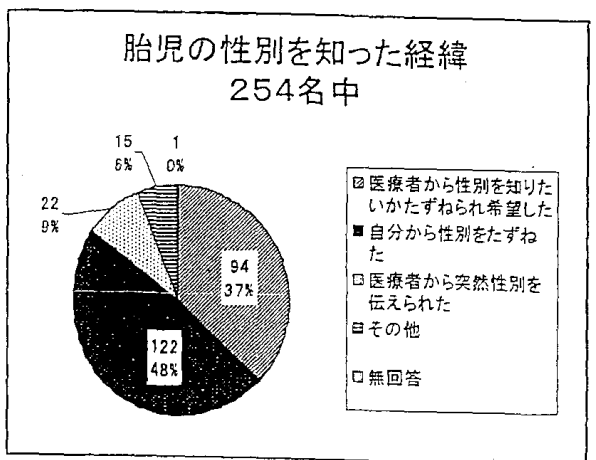
「妊娠と出生前検査の経験に関する アンケート調査」の概要

- 調査期間: 2003年1月～3月
- 調査地域: 東京都内
- アンケート配布: 保育園21件と医療機関4件において900通の配布を依頼した。
- 3月末日までに郵送法にて回収。382通が回収され(回収率42.4%)、有効回答は357。
- 内容: ここ10年間の妊娠経験と最近の妊娠における出生前検査の経験

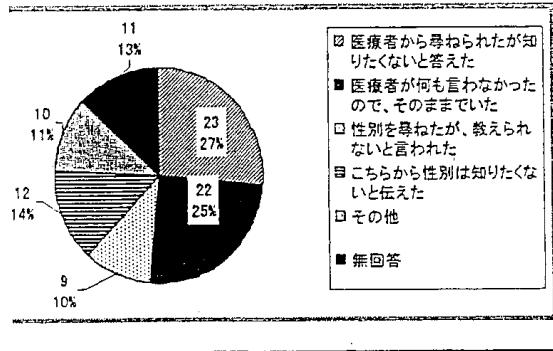


妊娠中に超音波検査で 胎児の性別を知りましたか

はい	254名
いいえ	87名
わからない	11名
無回答	3名



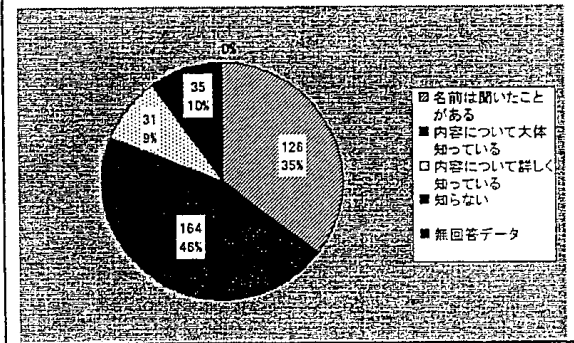
胎児の性別を知らなかった経緯 87名中



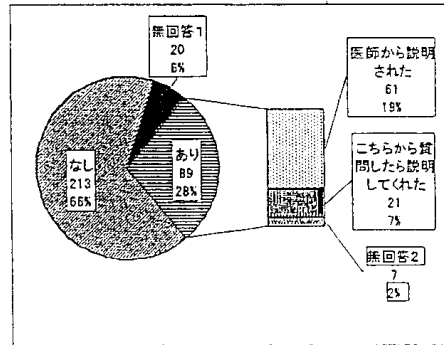
超音波検査に関する医師の情報提供と 妊婦の受け止め方

- 妊婦は雑誌や友人との会話などから超音波検査の知識があり、出産を予定している場合にはその検査を楽しみにしている人が多い。
- そのため、医師が超音波検査についての説明もせず、超音波検査を受けるか否かの意思確認もしないことをあまり気にとめない。
- 超音波検査を妊娠期間中に何回行なうかは医療機関や医師によって方針が異なり、それに対して妊婦は疑問や不満を抱くこともあるが、医師はその理由を妊婦に説明することは稀である。
- 医療者は、胎児の性別を知らせないという際にも妊婦の意思を確認しないことがめずらしくない。

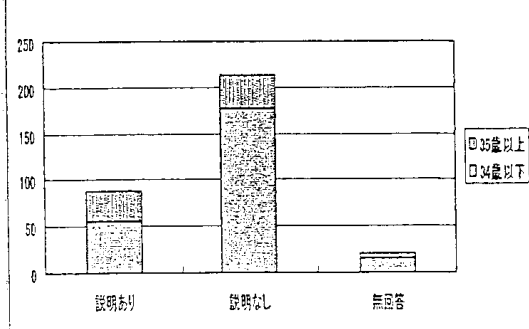
羊水検査を知っていますか (有効回答357)



医師(医療者)は羊水検査の目的、方法、 リスクなどについて説明しましたか(321)



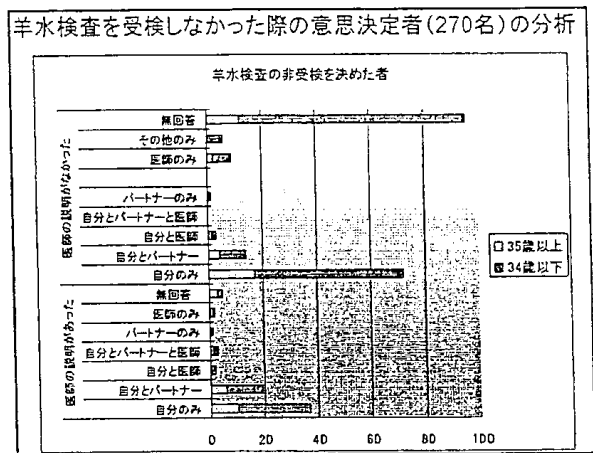
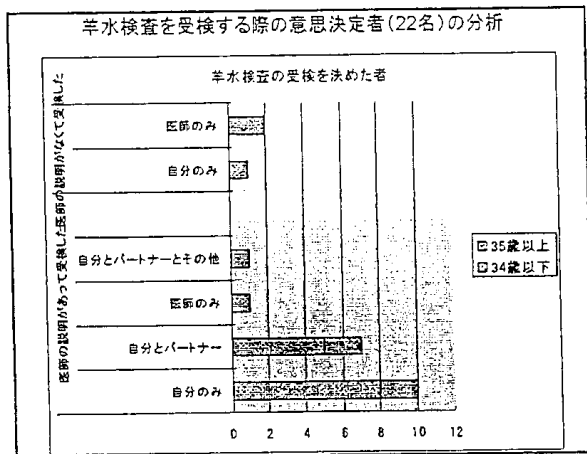
羊水検査についての医師からの説明



羊水検査の受検・非受検と

年齢、医師からの説明との関連(301)

	受検した		受検しなかった	
	34歳以下	35歳以上	34歳以下	35歳以上
医師から説明あり	6	13	51	19
医師から説明なし	3	0	175	34



35歳以上で羊水検査を受検した理由
(13名中11名記入)

高齢出産のため	8	障害児を育てる自信がない 2名 出産の準備 2名
マーカー検査の結果から	2	明確に確率が高いとは言 われないが受検 2名
安心/不安	複数	「安心のため」2名 「不安だった」3名 「念のため」1名

34歳以下で羊水検査を受検した理由
(9名中8名)

年齢	20代前半1名、20代後半2名、30代前半6名	
母体血清マーカー検査	受検 2名	確率が高いとは明確にいわれていない
超音波検査	全員受検	2名に「異常」(胎児発育遅延、後頸部浮腫)が見つかった
不安	内容記述(複数回答)	胎児の障害 3名、子育て 2名、精神的不安定 1名、妊娠中の体調が悪い 3名、流産経験 1名
その他		受けるものだと思っていた 2名 検査項目に含まれていた 1名

- 羊水検査を受けなかった理由(複数回答)
- 流産や胎児へのリスク、針を指すのが怖い
 - 自分には必要ない(年齢が若い、根拠不明)
 - 医師に説明されなかった(から、自分は大丈夫と思った)
 - 医師が必要ないと言った、勧められなかった
 - 胎児に何かがあっても産もうと思っていた
 - 検査を受けて何か異常が見つかった際にどうするか(産むか中絶するか)を考えたくなかった、決められなかった
 - マーカー検査の結果から不要

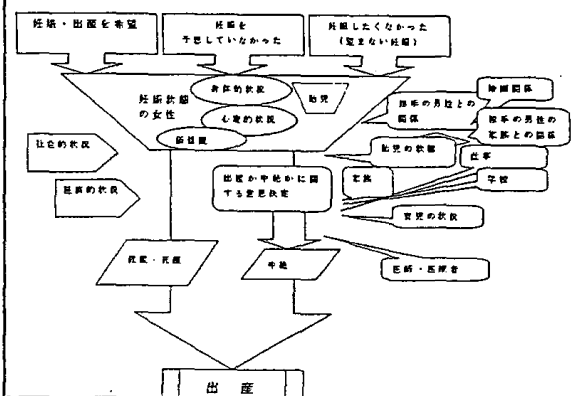
医師が検査の説明をすることおよび受検の意思確認をすることが検査を促す要因となっていた。逆に医師が説明しないことが妊婦が受検しなくても良いと判断する要因となっていた。

受検の意思決定は、医師から説明をされた場合には「自分」や「自分とパートナー」が決めたとする人が多い。説明されない場合には「医師が決めた」との答えがやや多くなるが、それよりも「無回答」が多く、さらに「自分」と答える人も少なくなかった。

受検しない理由には、異常があったとしても産むことを決めているのとは別に、検査の後の決断を迫られることを避けたいために「保留する」という態度が多く見られた。特に中絶の可能性を考えたくないとする傾向が強い。

現在の日本では、妊娠・出産・中絶もしくは不妊が、その原因・理由はどうあれ、女性の「役割」「責任」といった概念が強い。しかしながら、女性が妊娠・出産に関する意思決定をする際には、多くの社会関係の影響を強く受けている。

妊娠・出産の意思決定に影響を及ぼす影響



女性は意思決定をする際に、男性よりも強く、自分の意思を通すよりも周囲が自分に何を「してほしいか」を察して行動する傾向が強いと欧米でもいわれている。

日本の状況を見ていると、女性は自分の身を守るために、自分の意思を前面には出さずに夫や家族の意思を優先することがある。

また、自分の行動に対して、自分の意思でしたとは説明すると反発を招くおそれがあるため、何か説明しやすい、理解してもらいやすい「理由」を探す。

○ 長沖委員提出資料

<胎児細胞の利用に関するインフォームド・コンセントのあり方についての意見>

胎児細胞は、流産（自然流産あるいは人工流産）胎児から採取されることになるが、この場合、胎児は流産した女性のからだの一部であったものなので、その利用に際しては、当女性の同意が必要である。

「同意をとる」という場合には、本人が同意に必要なかつ十分な情報を得ており、それを冷静に判断できる状況におかれている、という条件が不可欠である。

この観点から、胎児細胞利用に関する同意、インフォームド・コンセントにあたっては、二つの困難が考えられる。

一つは、妊娠時の女性の心理状態は、きわめて不安定であること。そして流産前後は、その不安定な状態がさらに増幅されていることにある。

もうひとつは、「ヒト幹細胞を用いた臨床研究」ということが、きわめて専門的な話題であって、専門外の一般女性が日常的に考えている問題ではないため、一通りの説明を受けても、自分の胎児細胞がどのように利用されるかということを理解できるようになるまでには、かなり長時間を要すると考えられる点である。

妊娠時には、卵巣ホルモンや性腺刺激ホルモンなどが急増し、流産時には、それらが急減するといった変動があり、そのホルモン変化によって、いらだち、不眠、鬱状態などの精神不安がもたらされることがある。そして、それに加えて、流産（自然流産であっても人工流産であっても）と言う出来事は、女性の心理状態に、自分のからだの一部を失ったという喪失感や、子どもを産んでやれなかった自分に対する罪悪感などをもたらす。これがのちに、心的外傷性症候群や心身症を引き起こす場合も少なくない。

また流産をした女性に対しては、社会的な偏見も存在する。自然流産の場合には、期待していた子どもが失われたことに対する失意に加えて、心ない家族や周囲からの、いわれのない叱責（「流産したのは、本人の不摂生のためだ」などという）が、その悲しみを増幅させている。

また人工流産の場合には、女性のおかれた社会的・経済的状況に留意する必要がある。特に妊娠12週以後の中期人工妊娠中絶では、未成年・若年者で、妊娠に対する知識が不足していて中絶時期が遅くなったというケースと、一度は産むつもりであった妊娠が、何らかの社会的事情によって、産めなくなったというケースが、大半を占めている。（その事情には、妊娠判明後の離婚や婚約の破綻、倒産・解雇などで子育て費用が捻出できなくなった、などがある。）

前者の場合、当女性が自分の妊娠をどうするのか、を決定するまでに、すでに数ヶ月を要しているわけで、その様な状況下でさらに「胎児の利用」に同意するかしないかの決定まで求めるのは、相当に無理があるといえるだろう。

また後者の場合は、流産後も、当女性にとって処理せねばならないさまざまな問題が山積しているわけで、その様な状況下で「胎児の利用」に同意するかしないかまで検討する心理的余裕があるとは、とうてい考えられない。

こういった流産女性の心理的状態や社会的状況を考えると、流産という非日常的な状況を体現している女性が、その不安定な精神状態のなかで、自分の流産胎児が臨床研究に利用されることへの同意を求められた場合、「流産胎児の幹細胞を利用した臨床研究」というこれまで聞いたことも、考えたこともなかった専門的なことがらについて、冷静に検討し、的確な判断を下すことは、きわめて困難であるといえよう。

平成15年12月12日
百合レディスクリニック
院長 丸本百合子

○ 中畑委員長提出資料

ヒト幹細胞に関する研究の現状に関するアンケート調査について

(平成15年4月実施)

送付総数 1,441

回収総数 606

(A) 「ヒト死亡胎児を除くヒト幹細胞」を用いた再生医療研究について

- 基礎研究について
 - 1) 現在までに行った または 行っている
はい 94 いいえ 509
 - 2) 計画している
はい 92 いいえ 465
- 臨床応用を目指した研究について
 - 1) 現在までに行った または 行っている
はい 51 いいえ 538
 - 2) 計画している
はい 76 いいえ 485

(B) 「ヒト死亡胎児」を用いた研究について

(1) 再生医療に関する研究について

- 基礎研究について
 - 1) 現在までに行った または 行っている
はい 15 いいえ 585
 - 2) 計画している
はい 21 いいえ 564
- 臨床応用を目指した研究について
 - 1) 現在までに行った または 行っている
はい 7 いいえ 583
 - 2) 計画している
はい 12 いいえ 559
- 輸入ヒト胎児細胞について
 - 1) 国外から輸入したヒト胎児細胞を用いて基礎研究を行った または 行っている
はい 5 いいえ 566
 - 2) 国外から輸入したヒト胎児細胞を用いて臨床応用を目指した研究を行った または 行っている
はい 1 いいえ 566

(2) 「ヒト死亡胎児」を用いた研究の中で、再生医療以外の研究について

- 基礎研究について
 - 1) 現在までに行った または 行っている
はい 18 いいえ 583
 - 2) 計画している

はい 9 いいえ 585

● 臨床応用を目指した研究について

1) 現在までに行った または 行っている

はい 4 いいえ 587

2) 計画している

はい 5 いいえ 574

● 輸入ヒト胎児細胞について

1) 国外から輸入したヒト胎児細胞を用いて基礎研究を行った または 行っている

はい 2 いいえ 569

2) 国外から輸入したヒト胎児細胞を用いて臨床応用を目指した研究を行った または 行っている

はい 0 いいえ 568

(C) 「ヒト ES 細胞」を用いた再生医療研究について

(1) 再生医療に関する研究について

● 基礎研究について

1) 現在までに行っている

はい 6 いいえ 594

2) 計画している

はい 53 いいえ 540

● 臨床応用を目指した研究について

1) 現在までに行っている

はい 2 いいえ 585

2) 計画している

はい 31 いいえ 552

(2) 再生医療以外の研究について

● 基礎研究についてお伺いします

1) 現在までに行っている

はい 37 いいえ 557

2) 計画している

はい 29 いいえ 550

● 臨床応用を目指した研究について

1) 現在までに行っている

はい 17 いいえ 567

2) 計画している

はい 20 いいえ 555

(D) 設備の整備について

1) 臨床研究を行う場合、セルプロセッシングセンターは整備されていますか

はい 46 いいえ 441